

## 10. 施設・設備等

施設・設備等に関しては、平成10年度から始まった教育研究の高度化に対応するための施設環境整備は順調に推進しているものの、未だ、現在の耐震基準にそわない昭和40年代に建設された校舎が現存し安全性の欠如、建物が分散し利便性の欠如、まとまった広場と緑が不足している等々多くの問題を抱えている。

これらの問題を一新するために「第Ⅱ期施設整備計画」を策定し平成14年度より実施することで「環境調和型キャンパス」の創造を目標とし推進する。

具体的には、耐震性の強化を盛り込んだ老朽校舎の更新、学部学科間の教育環境（快適性）の是正、各校舎の効率的な配置による動線（利便性）の改善、敷地の効率的な利用（憩いのスペースや広場の拡充及び緑化の推進）等を含みつつ、水と緑を生かしたゆとりあるキャンパス、情報拠点の役割を果たしていく「知」のネットワークキャンパス、あらゆる世代の人に開かれたキャンパス、安全性、利便性、省エネを兼ね備えたキャンパス等々の実現を目指す。

また、情報インフラについては、大学設置基準第38条第1項（「大学は、学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えるものとする」）に基づき、学術情報の基盤構築は図書館の所管となっている。福岡工業大学附属図書館は、大学・短期大学部の共有施設として管理運営されており、大学院も含め本学の教育研究を支援するに十分な学術情報の質的・量的整備、および利用環境の整備をめざしている。

### （一）施設・設備

#### （1）施設・設備等の整備

実際にこの「第Ⅱ期施設整備計画」は平成16年度にひととおり完了することとなった。

現在では様々な視点から点検を加えているものの、ハード的には耐震性の強化および学部学科間の教育環境の格差は是正されことは勿論のこと、分散していた施設が効率的に配置（利便性）されたことによって学生および教職員は広域的かつ効率的に施設を利用できるようになった。

また、ソフト的には今回のキャンパス緑化工事によって広場と緑を多く取り入れゆとりとやすらぎを生む環境へと生まれ変わった。「入学生アンケート」および「キャンパス見学会参加者アンケート」によれば、「施設設備の充実」が本学の強みの上位に挙げられており、環境整備が大きな要因と考えられる。

以下、大学学部、大学院における施設・設備等の整備状況について詳細を述べるが、教育の用に供する情報処理機器などの配備状況については、「12. 情報処理センター」で記述する。